

福島県内における野生傷病鳥獣の放射性セシウムのモニタリング

福島県 ○村上 貴恵美、小松 仁、神田 幸亮、稲見 健司、壁谷 昌彦

- ・福島県では原発事故後、狩猟対象鳥獣に出荷制限等がかけられている。
- ・主な狩猟鳥獣は放射性セシウムのモニタリングが行われているが、タヌキ等の野生動物の汚染状況は不明であるため、福島県内で保護された主な狩猟鳥獣以外の放射性セシウム濃度について調査を行った。
- ・2014～2022年に採取した220個体中24個体が食品基準値の100Bq/kgを超過した。

背景

○ 野生動物肉の出荷制限

東京電力(株)福島第一原子力発電所事故の影響により、福島県では現在でもイノシシ等の狩猟対象鳥獣において一部試料で食品基準値を超える放射性セシウムが検出されており、出荷制限等がかけられている。

○ 狩猟鳥獣の放射性セシウムモニタリング

福島県ではイノシシやクマなどの主な狩猟鳥獣の筋肉中放射性セシウム濃度のモニタリングが行われている。

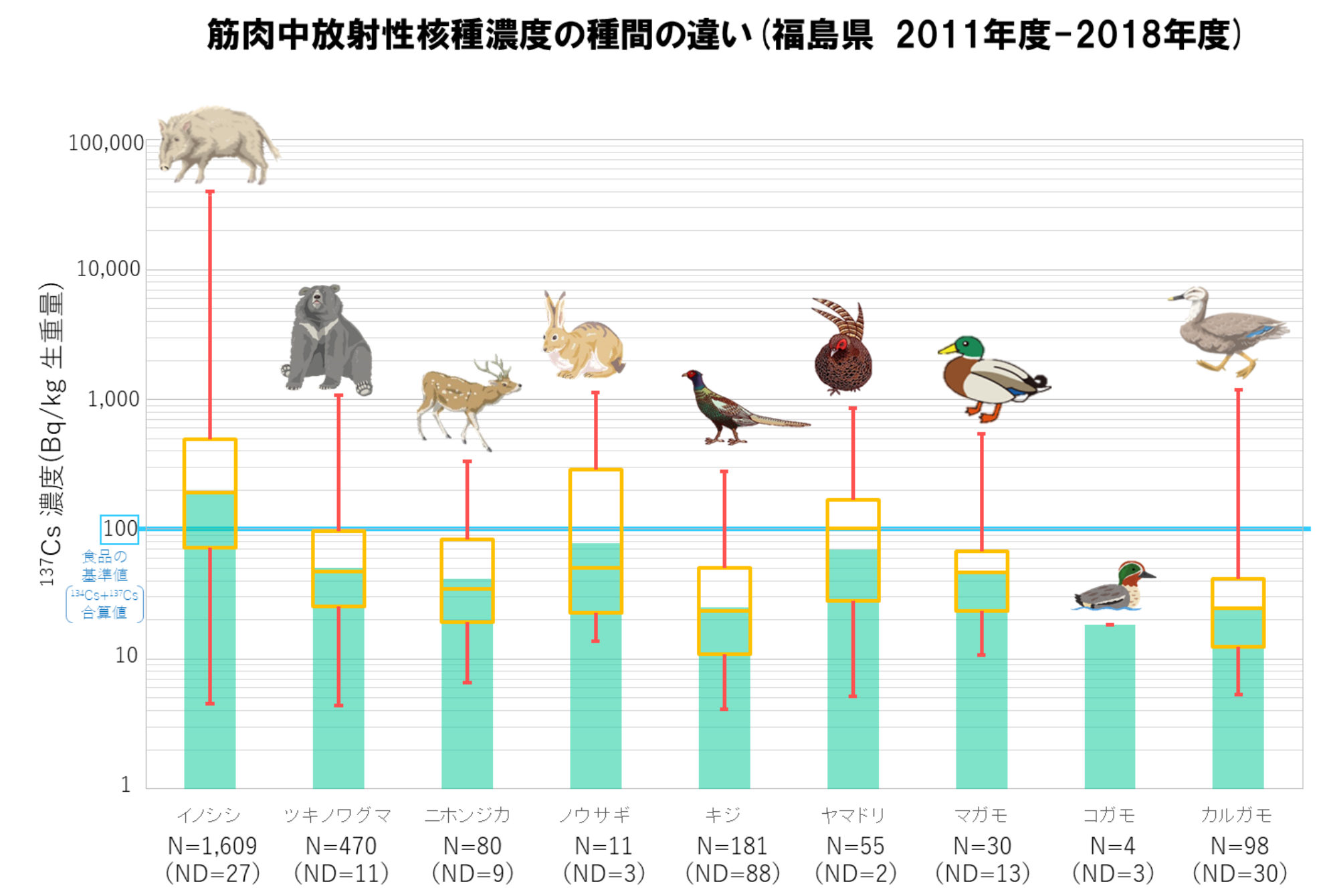


図1 筋肉中放射性セシウム濃度の種間比較

一方、その他の野生鳥獣のモニタリングは行われておらず、汚染状況は不明。

目的

- 福島県内の**主な狩猟鳥獣以外の野生鳥獣の筋肉中放射性セシウムの汚染状況を把握する。**

方法

- 福島県野生生物共生センターにて保護された傷病鳥獣(タヌキ、キツネ、カモシカ等)のうち、死亡したものの筋肉を採取し、Ge半導体検出器で放射性セシウム濃度を測定する。



傷病野生鳥獣



保護



野生生物共生センター



保護個体死亡



個体の筋肉をトリミング



凍結乾燥粉砕



U-8容器へ充填



γ線放射性核種濃度測定 (Ge半導体検出器)



γ線放射性核種濃度測定 (Ge半導体検出器)

調査対象地域: 福島県全域
検体採取期間: 2013年～2022年

結果

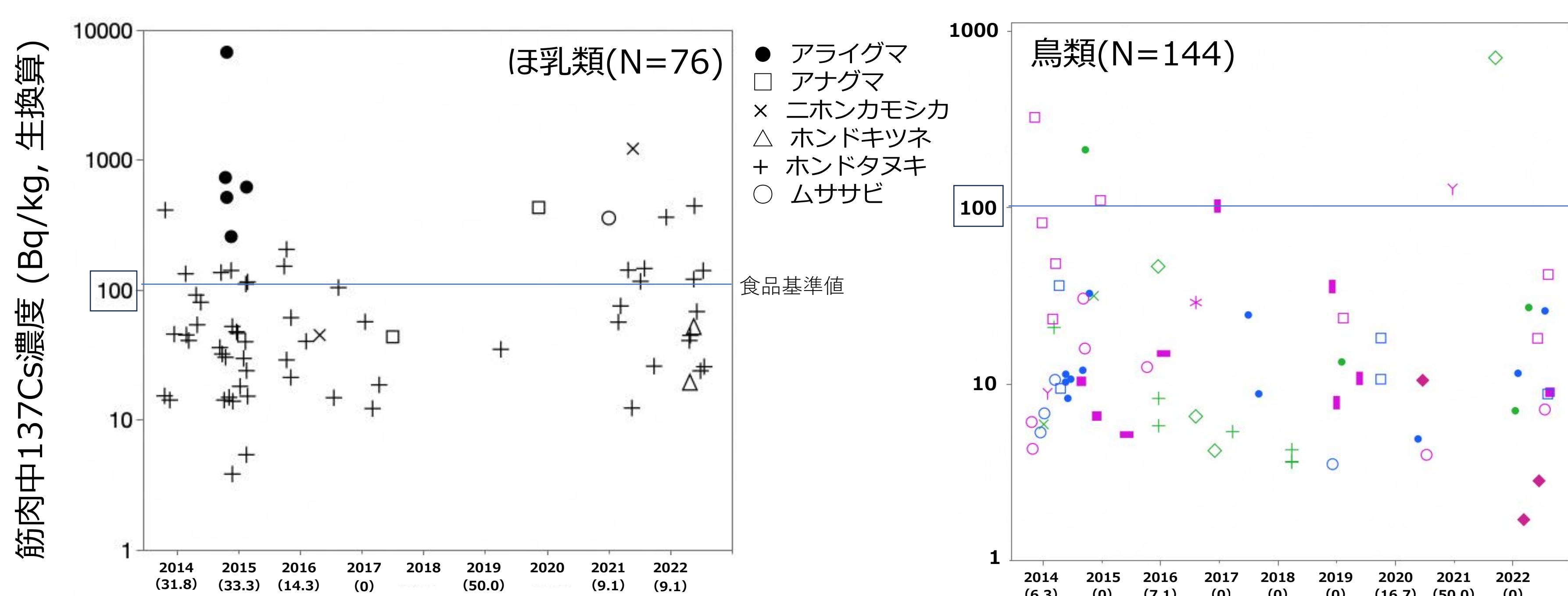


図2 筋肉中放射性セシウム濃度の種間比較

※ ()の数字は食品基準値超過率

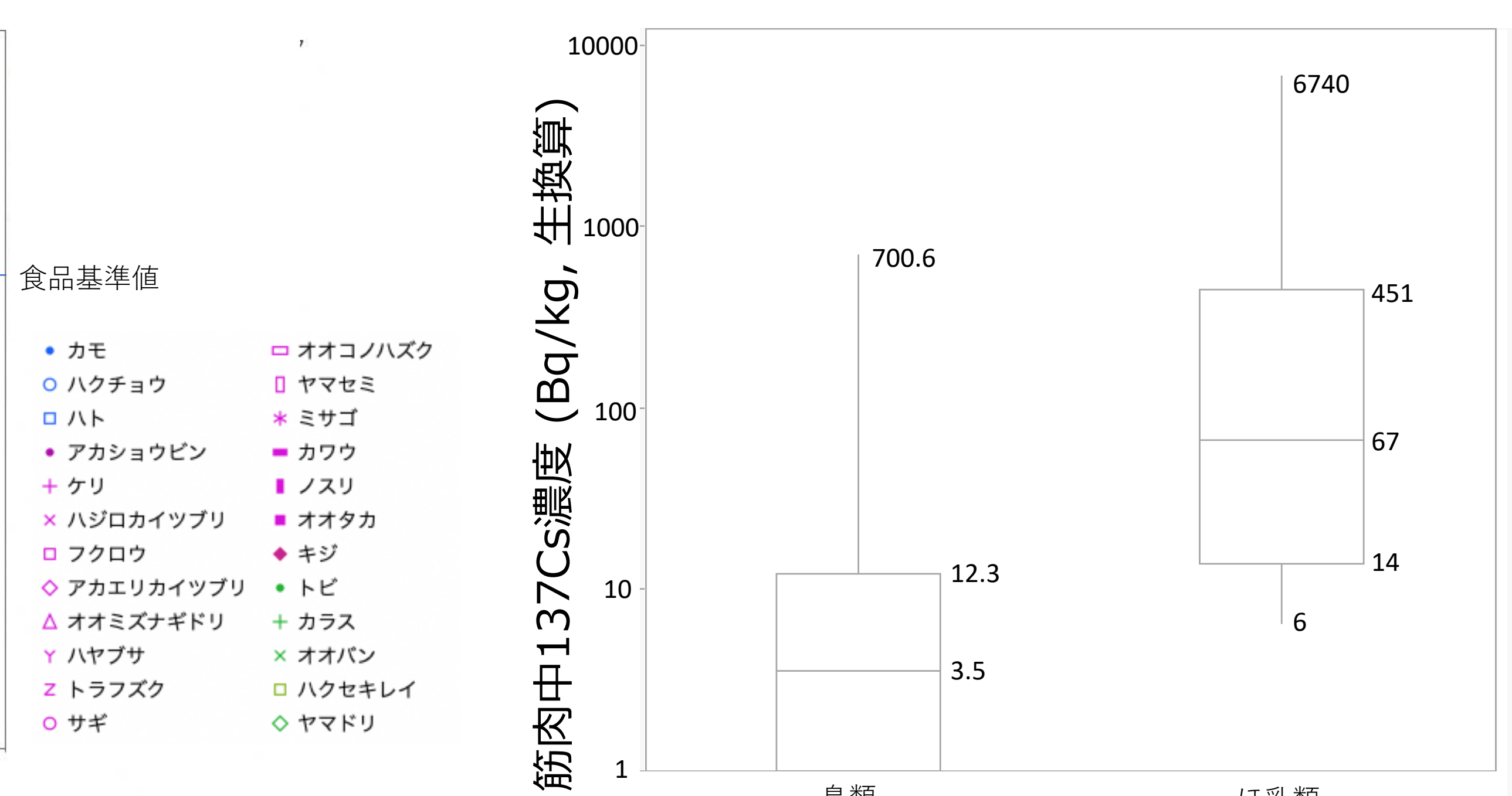


図3 浜通りの鳥類とほ乳類の比較

- ・2014～2022年に採取した220個体中24個体が食品基準値の100Bq/kgを超過した。
 - ・中通りと浜通りでは、ほ乳類と鳥類を比べるとほ乳類の方が筋肉中の放射性セシウム濃度が高い傾向にある。
- 今後、サンプル数を増やすとともに、動物種、食性、地域別等による比較を行う。**